

会 議 録

会 議 の 名 称	行田市在宅医療・介護連携推進協議会 普及啓発ふらっと部会次第	
開 催 日 時	令和 8 年 6 月 1 1 日（木） 開会： 1 8 時 3 0 分・閉会： 1 9 時 3 0 分	
開 催 場 所	産業文化会館 第 2 会議室	
出席者（委員） 氏 名	松井毅、鈴木伸吾、青木和宏、新井竜、加藤里美、 山岸克也、平野輝利人、今井和則、阿部麻季、前田千穂、 高田直子、浅見純一、川島治	
欠席者（委員） 氏 名	矢那瀬淳一、荒木宏、高松真由美、寒河江涼太、藤村幸子、 野口清美、増田和世、堀内規、小林永治、江黒徹、河野真也、 島田由紀子	
事 務 局	行田市高齢者福祉課地域包括ケア担当 行田市機能強化型地域包括支援センター緑風苑	
会 議 内 容	・「行田人」第 25 号内容について ・その他	
会 議 資 料	（資料名・概要等）	
そ の 他 必 要 事 項		
会議録の確定	確定年月日	主宰者記名
	令和 8 年 6 月 2 5 日	松 井 毅 ----- 平野輝利人

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
会長 山岸 松井 新井 会長 松井 平野	[開会] 18 : 30 挨拶 健康フォーラムの連絡、まだ席のあまりもあるので、ぜひ参加を促していく。 7月2日（木）に訪問看護連絡会があるので参加をお願いします。 フレイル予防で新しいラインがあるので、ぜひ知っていただきたい。 メールが普及啓発で届いていなかったかもしれない。 市→前任者に確認 事例の人物表現について 施設名の特定があるので、事例検討の名前をどうするか。 →施設のプライバシーとかを含めてどうなのか。 今現在も利用しているから特定になってしまうのではないかとのこと。 仮の事例にするその説明をしっかりとしてもらおう。必要があるか、そこまで年齢を細かくいれなくてもいいのではないか。名前のイニシャルとかも踏まえていく形でいいのではないか。 事業所名ではなく、人物表現を少し変えてみていく。 1. 研修会について 日程確認 1回目：松井 Dr.司会 2回目：山岸さん司会 ファシリテーターに関しては、ケアマネを中心に検討しています。ケアマネに依頼する。 サブでリハビリ職をたてていけるようにする必要があると思う。 （ケアマネ不安なところもあるので、リハのサポートも含めて） ファシリテーターの研修をケアマネさんにして、やっていく形にする。

	ケアマネさんに症例発表を依頼して検討に行く予定である。 河野さんに依頼して検討していく予定。
浅見	グループワーク 30 分にしていく予定。返答で可否 1 時間の予定。 症例発表 5 ～ 10 分にして、やっていく。
平野	事例について内容検討をする。 方向性について、介護と医療のギャップに関して話をしていくようにする。 研修のテーマについて。医介連携版地域包括ケア会議
浅見	結論をどうするか見ていく必要があるのではないかな。
平野	スタートとしては、医療と介護の視点をそれぞれ共有する。 （情報共有しづらいところが多い。）
高田	目標をそれぞれのグループの医療と介護で話をしていくほうが相談しやすい。
山岸	スタッフの集まりによっては、職種がまとまってしまう可能性もあるのではないかとのこと。
平野	以前の形から均一化できているのでその形で行く。
新井	医師の人が同じグループだと言いつらいのではないかな。 課題をどうするかを検討していく形がグループとしてやりやすいのではないかな。
鈴木	介護職としては目標を立てていくのは難しいのではないかな。 何かに対して、どんな情報があってどう介入していくのかをそれぞれの研修でやっていくのがいいのではないかな。
前田	前は、薬剤師さんがグループにいて薬のことはそのグループで解決していった。それでいいのかな。
平野	グループで話をする機会やそういう個々に対してなのでは、いいのではないかな。
会長	それぞれの課題をしっかりと提示して成果を持って帰ってもらう形にしていくほうが良いのではないかな。ただ開催するだけにならないように。

阿部	本人たちのニーズや目標をもって、計画をしていくほうがわかりやすく、目標を決めた方がわかりやすいのではないかな。
青木	目標を決めて、どのような形の情報が必要なのかの道筋ができるのではないかなと思われる。
今井	それぞれのグループで飲み込み、排泄の目標にして他職種とのディスカッションができればよいのではないかな。それを発表して、多くの視点を手に入れることができるのではないかな。
平野	まとめると、課題をそれぞれ、飲み込みや胃瘻、排泄のところとしてあげて、そこに対しての目標をあげて、それぞれのグループの医療と介護のスタッフで話し合いをして、どうアプローチしていくかをまとめて、どこをアプローチしていくかをまとめる。 ファシリテーターには早めに事例を渡して、どの形にもっていったほしいのかを共有していく必要あり。
松井	それぞれの職種で、8人位参加するといいいのではないかなという形
今井	薬に関しては、記入している所あり。
北原	この事例に関して、幸せの定着にして目標と方向を考えていくのがいいのでは。 その人に対しての良くしたいと思うところをそこに向けて動いていけるようにするところが必要というか共通認識にあるのではないかな。
松井	サブテーマに“幸せになるために”というところを足してみていく必要がある。
阿部	既往歴の記入が必要になるのではないかな。
平野	既往歴を追加予定となる。
浅見	薬の情報が多すぎるところとかで見ていく必要がある。
鈴木	情報としての視点が別々なので、アセスメントシート作っていく形でみていくのではないかな。 アセスメントの視点をそれぞれの職種（介護）とかに共有できるようにする形もいいのではないかなと感じた。
青木	研修時間が足りなくなってしまうのではないかな。

松井 平野 青木	1 時間 3 0 分だと発表などが難しくなっている、今回の形にしていく。 アセスメントのテーマだと研修が難しくなりそうなところも考えられる。 目標を 3 つ立てていく中で、その目標に対しての課題まとめていく。グループ他職種間で話し合いをしてみたい。 それぞれの意見をみて、やっていく必要がある。 連携としてどういうところが必要か、どこの内容をみていくか、どういう連携方法か、共有をどうしていくのかをみていく必要があるのではないか。 19 : 20 ~ 普及啓発より（「行田人」第 25 号内容について） 【閉会】 19 : 30
-------------------------------	--